

職能に資するエビデンス研究

福祉用具・義肢・装具支援に関する

啓発と実態調査～福祉用具編～

調査対象 会員

報告書



平成 30 年 3 月

日本理学療法士学会

日本支援工学理学療法学会

目 次

【要旨】.....	3
第1章 本事業の概要.....	5
第1節 背景と目的.....	6
第2節 実施体制.....	6
第3節 調査方法.....	7
第2章 結果.....	9
第1節 回収状況.....	10
第2節 調査結果.....	10
1. 基本属性.....	10
2. 理学療法士の福祉用具への関与度.....	12
3. 理学療法士が福祉用具に関与する有効性.....	15
4. 理学療法士に必要とされる福祉用具の知識・技術.....	16
5. 理学療法士に必要とされる福祉用具の知識・技術を学ぶ機会.....	17
第3章 結果のまとめ.....	19
資 料.....	23
1. 依頼文(メール文).....	24
2. 調査項目.....	26

【要旨】

福祉用具・義肢・装具支援に関する啓発と実態調査～福祉用具編～

<目的>

福祉用具は、高齢者・障がい者の自立を促進し、介護者の負担軽減を図ることによってその生活を支え、生活を豊かにするツールとして広く普及している。しかし、平成 28 年度に全国の施設代表者を対象とした実態調査より、理学療法士の福祉用具に対する知識・技術の不足や教育状況の不十分さが明らかとなった。今回、このような背景を受けて、会員個人の現状を把握し、啓発・教育にて実施すべき内容を明らかにすることを目的に本調査を実施した。

<方法>

平成 29 年 12 月 22 日現在、日本理学療法士協会会員データベースにメールアドレスの登録があり理学療法士教員及び行政職を除いた在会会員を対象とし、web アンケートにて実施した。アンケート対象者 88,332 名のうち、回答者は 14,128 名(回収率 16.0%)、その内、有効回答者数は 13,646 名(有効回収率 15.4%)であった。

<結果と考察>

福祉用具は生活環境の調整を進めるうえで活用されることが多く、今回のアンケートの結果からも支援対象者の約半数が福祉用具を必要としていた。関与した内容は「福祉用具の評価」「選定」「ADL 練習(使用方法の練習)」に比べ「導入や作製後のフォローアップ」のポイントが少ないことから、フォローアップについては理学療法士以外の手に委ねられていることが多いことが示唆された。関わった福祉用具については、移動関連の福祉用具(車椅子、杖、歩行器、手すり、擦り付け板等)が多数を占め、理学療法士が歩行や車椅子による移動の練習に関わることが多いことに関連していると思われる。福祉用具に関わっていない理由については、福祉用具の適応を十分に理解しておらず必要性を感じていないとも考えられ、知識・技術の不足を補う研修とともに一層の啓発が必要と思われる。また他職種が理学療法士を福祉用具に関わる職種として認識していないとも考えられた。

理学療法士が備えている専門性をもって福祉用具に関わることが、福祉用具の最大の効果である自立度の向上と介護負担の軽減につながることについては多くの理学療法士が良く理解しており、理学療法士に求められる知識・技術については、理学療法士が持つ基本的な知識・技術を、「福祉用具の評価」、「選定」、「ADL 練習(使用方法の練習)」、「導入や作製後のフォローアップ」に結びつける重要性が示唆された。

福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会については、卒前教育において不足していたとの指摘が多くあり、卒後の研修についても不足しているとの回答が多く、協会・士会における福祉用具に関する研修の充実を求める要望の高さが伺えた。

第1章 本事業の概要

第1節 背景と目的

平成5年に制定された福祉用具法(福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律)では、福祉用具を「心身の機能が低下し、日常生活を営むのに支障のある老人または心身障がい者の日常生活の便宜を図るための用具及びこれらの者の機能訓練のための用具並びに補装具」を総称するものと定義されている。この福祉用具の範疇には、補装具や介護保険の対象とする福祉用具をはじめ、日常生活用具、自助具、さらにはリハビリテーション機器、スポーツ・レクリエーションで活用されている用具なども含まれており、高齢者・障がい者の自立を促進し、介護者の負担軽減を図ることによってその生活を支え、生活を豊かにするツールとして広く普及している。

そこで、日本支援工学理学療法学会では、平成28年度に全国の施設代表者を対象とした理学療法士の福祉用具・義肢・装具支援に関する実態調査を実施した。その中で、福祉用具に関する様々な場面で理学療法士が関与しているという結果が得られた。一方で、関与していないという回答もあり、その理由としては時間や備品の不足とともに、福祉用具に関する知識や技術の不足、また教育状況についても卒前・卒後ともに十分ではないという回答が多く、福祉用具活用の啓発・教育の必要性がうかがえた。今回、このような背景を受けて、会員個人の現状を把握し、啓発・教育にて実施すべき内容を明らかにすることを目的に本調査を実施した。

第2節 実施体制

研究責任者	半田 一登	日本理学療法士学会会長
研究代表者	大峯 三郎	日本支援工学理学療法学会代表運営幹事 九州栄養福祉大学
共同研究者(班長)	秋田 裕	日本支援工学理学療法学会運営幹事 川崎市中部リハビリテーションセンター
共同研究者	河添竜志郎	日本支援工学理学療法学会運営幹事 株式会社くますま
共同研究者	栄 健一郎	日本支援工学理学療法学会運営幹事 適寿リハビリテーション病院
研究協力者	小池 清貴	パラマウントベッド株式会社
研究協力者	佐藤 史子	横浜市総合リハビリテーションセンター
調査委託企業	株式会社ネオマーケティング	

第3節 調査方法

1. 対象

平成 29 年 12 月 22 日現在、日本理学療法士協会会員データベースにメールアドレスの登録がある在会会員 88,327 人(理学療法士教員及び行政職を除く)を対象とした。

2. 調査方法

調査方法は、対象会員へメールにて案内を送り、web アンケートにて実施した。対象者 1 人 1 人に振られた固有の URL へアクセスし、Web による回答を行った。

3. 調査期間

調査期間は、平成 30 年 1 月 5 日(金)から平成 30 年 1 月 17 日(水)18 時まで。

4. 調査項目

設問数は 16 問で、調査項目は下記のとおりである。

1. 職場の種類
2. 職場の理学療法士の人数
3. 臨床経験年数
4. 日常的に関わっている主な疾患
5. 福祉用具を必要とする支援対象者の割合
6. 1 年間に福祉用具に関する項目に関わった件数
7. 1 年間に関わった福祉用具の種類
8. 福祉用具に関わっていない理由
9. 理学療法士が関わることで期待できる効果の有無
10. 理学療法士が関わることで期待できる効果の内容
11. 理学療法士に特に必要とされる福祉用具の知識・技術
12. 理学療法士に必要とされる福祉用具の技術
13. 理学療法士養成校在学中に福祉用具を学ぶ時間の有無
14. 福祉用具に関する知識技術を学ぶ機会の有無
15. 福祉用具を学ぶ機会
16. 福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会の増加希望

5. 解析方法

得られたデータは単純集計を行い、考察を加えた。

6. 倫理的配慮

本研究は日本理学療法士学会倫理審査部会の承認(承認番号 H29-002)を受けて実施した。

調査対象者に対して、本調査の目的、結果の利用について案内時のメールにて説明を実施した。本調査に対する同意は調査の回答をもってみなすこととした。

7. 利益相反の開示

研究責任者、研究代表者共同研究者および研究協力者の全てにおいて、開示すべき項目はない。

第 2 章 結果

第1節 回収状況

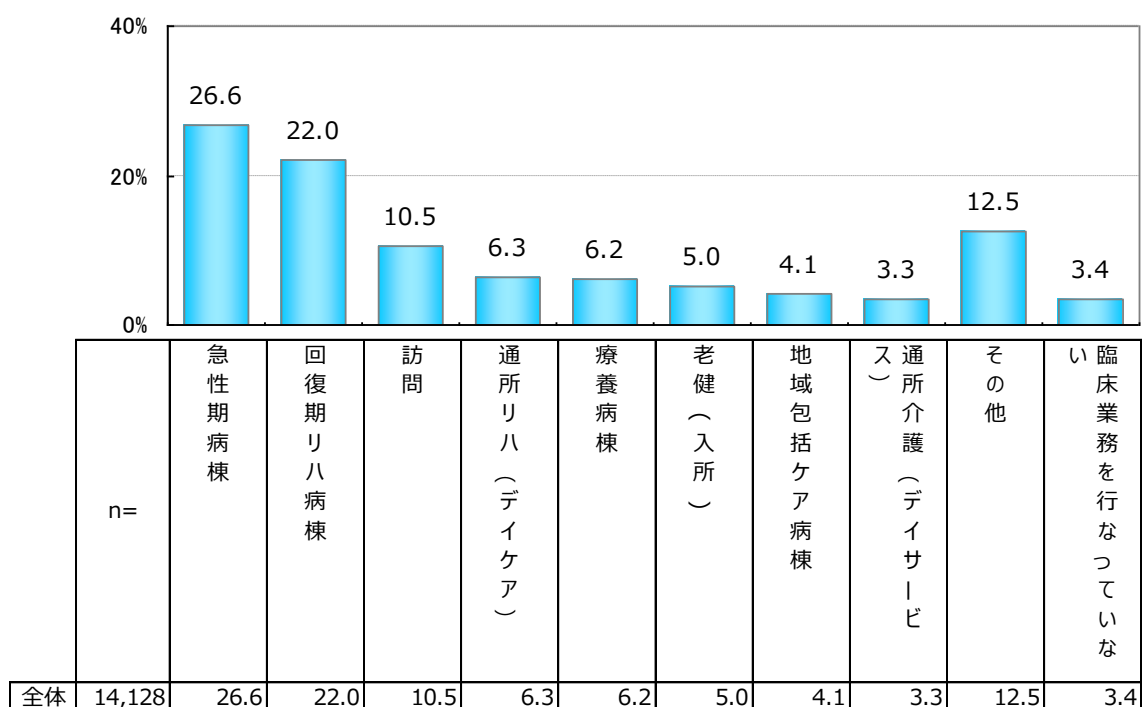
アンケート対象者 88,327 名のうち、回答者は 14,128 名(回収率 16.0%)、その内、有効回答者数は 13,646 名(有効回収率 15.4%)であった。

第2節 調査結果

1. 基本属性

1) 職場の種類

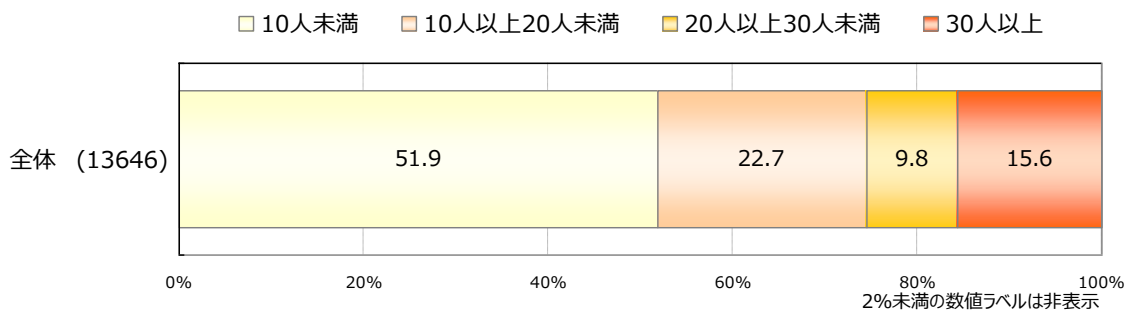
Q1.あなたが現在、主に勤務している職場の種類をお答えください。(お答えは1つ)



- 職場の種類について最も高いのは、「急性期病棟」(26.6%)である。次いで「回復期リハ病棟」(22.0%)、「訪問」(10.5%)、「通所リハ(デイケア)」(6.3%)と続く。

2) 職場の理学療法士の人数

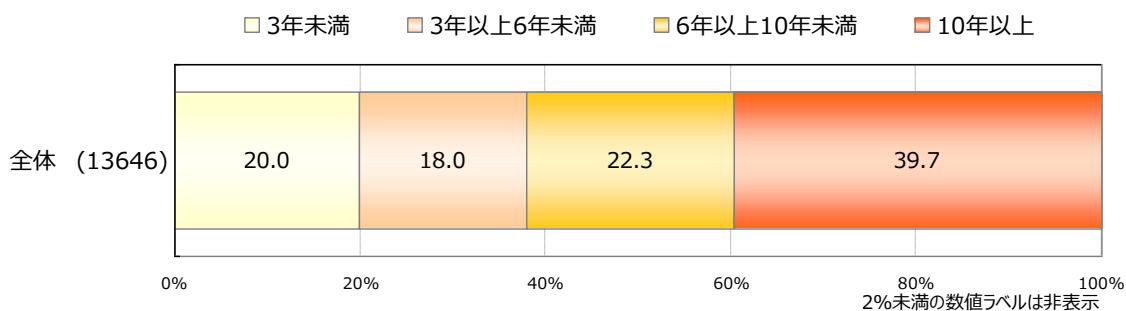
Q2.前問でご回答いただいた職場の理学療法士の人数をお答えください。(お答えは1つ)



- 職場の理学療法士の人数で最も高いのは、「10人未満」(51.9%)である。次いで「10人以上20人未満」(22.7%)、「30人以上」(15.6%)、「20人以上30人未満」(9.8%)と続く。

3) 臨床経験年数

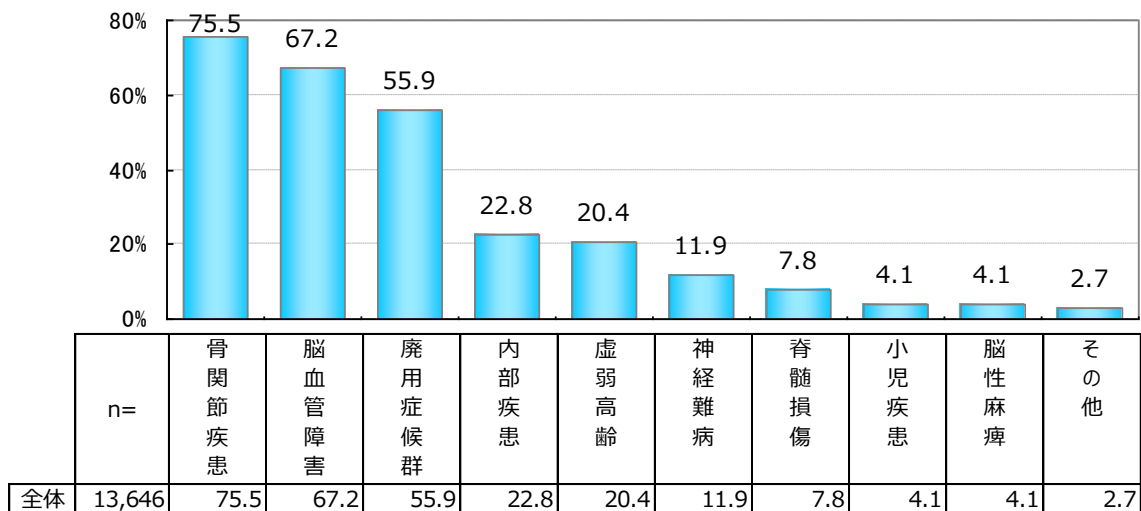
Q3.あなたの臨床経験年数をお答えください。(お答えは1つ)※臨床業務を行っていない期間は除いてください。



- 臨床経験年数について最も高いのは、「10年以上」(39.7%)である。次いで「6年以上10年未満」(22.3%)、「3年未満」(20.0%)、「3年以上6年未満」(18.0%)と続く。

4) 日常的に関わっている主な疾患

Q4.あなたが日常的に関わっている主な疾患を3つまでお答えください。(お答えは3つまで)



- 日常的に関わっている主な疾患について最も高いのは、「骨関節疾患」(75.5%)である。次いで「脳血管障害」(67.2%)、「廃用症候群」(55.9%)、「内部疾患」(22.8%)と続く。

2. 理学療法士の福祉用具への関与度

1) 福祉用具を必要とする支援対象者の割合

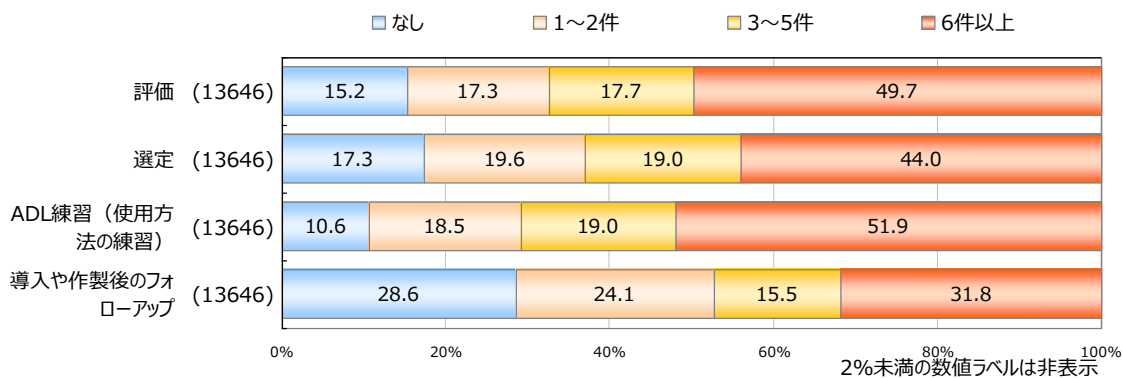
Q5.あなたが関わる支援対象者のうち、福祉用具を必要とする方のおおよその割合をお答えください。(お答えは半角数字で)※0~10の整数でお答えください。対象者がいない場合は「0」と入力してください。

	統計量 母数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
全体	13646	73402	5.38	3.033	0	10	6

- 福祉用具を必要とする支援対象者の平均割合は 5.38/10である。

2) 1年間に福祉用具に関する項目に関わった件数

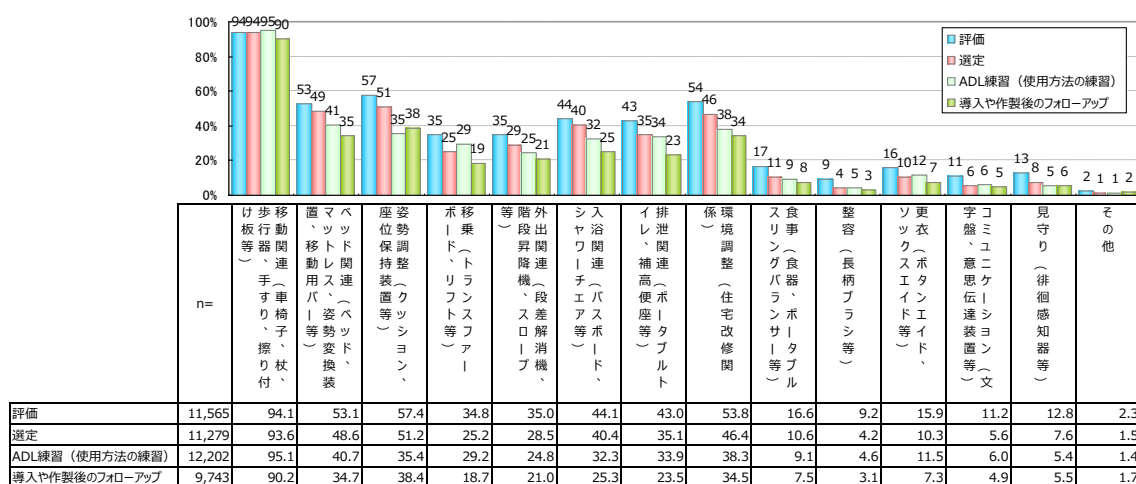
Q6.あなたがこの1年間に、福祉用具に関する下記の項目に関わった件数をそれぞれお答えください。(お答えはそれぞれ1つ)



➤ 1年間に福祉用具の項目に関わった件数についてはどれも「6件以上」が最も高い。

3) 1年間に関わった福祉用具の種類

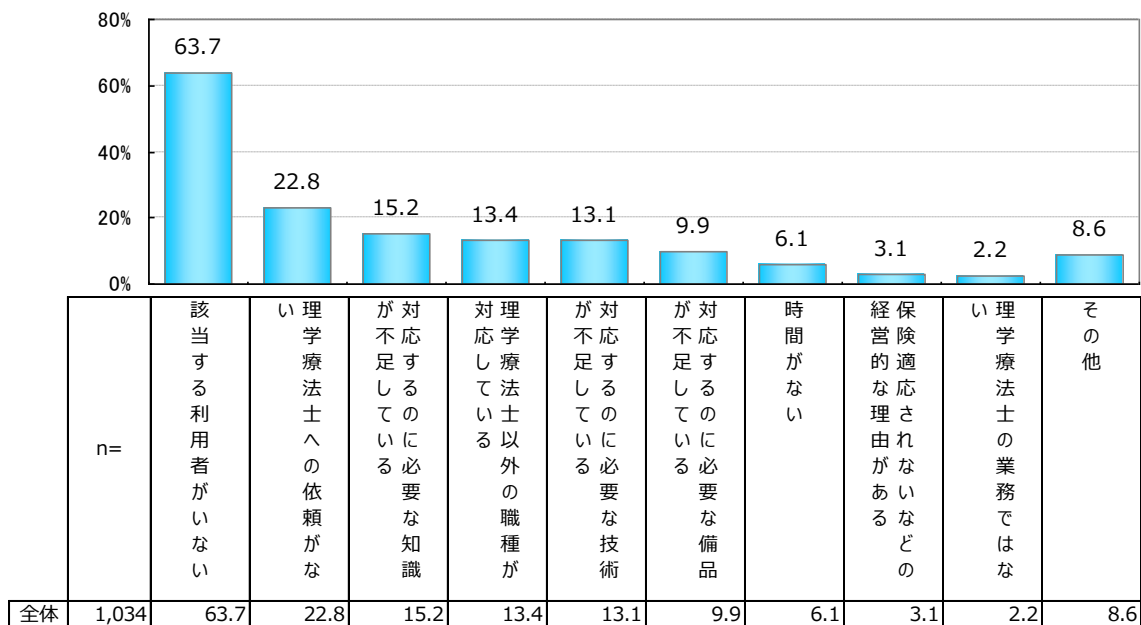
Q7.あなたがこの1年間に「評価」「選定」「ADL練習(使用方法の練習)」「導入や作製後のフォローアップ」のいずれかで関わった福祉用具をすべてお答えください。(お答えはいくつでも)



➤ この1年間に関わった福祉用具については、どれも「移動関連(車椅子、杖、歩行器、手すり、擦り付け板等)」が最も高い。

4) 福祉用具に関わっていない理由

Q8.あなたが福祉用具に関わっていない理由をすべてお答えください。(お答えはいくつでも)

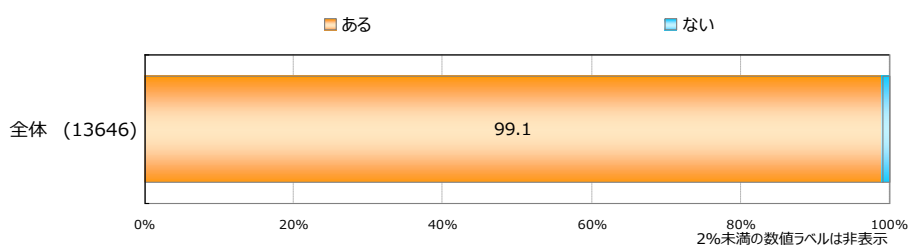


- 福祉用具に関わっていない理由について最も高いのは、「該当する利用者がいない」(63.7%)である。次いで「理学療法士への依頼がない」(22.8%)、「対応するのに必要な知識が不足している」(15.2%)、「理学療法士以外の職種が対応している」(13.4%)と続く。

3. 理学療法士が福祉用具に関与する有効性

1) 理学療法士が関わることで期待できる効果の有無

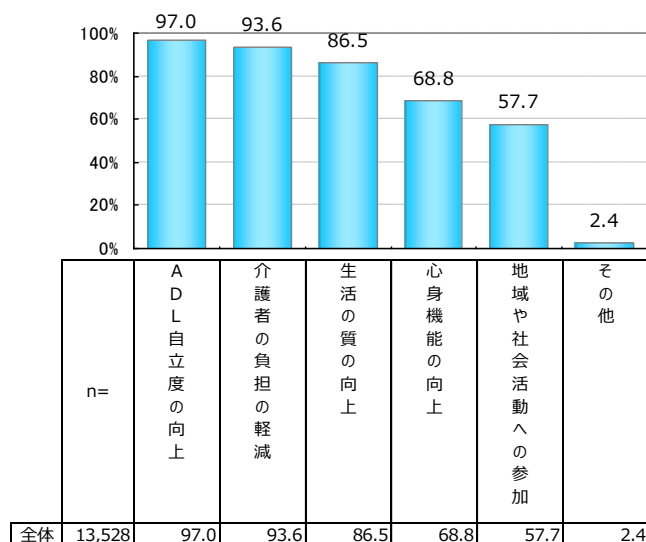
Q9.理学療法士が福祉用具の (1)評価、(2)選定、(3)ADL 練習(使用方法の練習)、(4)導入や作製後のフォローアップに関わることの意義についてお聞きます。理学療法士が、これらの業務に関わることで期待できる効果はありますか。(お答えは1つ)



➤ 理学療法士が関わることで期待できる効果がある割合は 99.1%である。

2) 理学療法士が関わることで期待できる効果の内容

Q10.理学療法士が福祉用具の (1)評価、(2)選定、(3)ADL 練習(使用方法の練習)、(4)導入や作製後のフォローアップに関わることで期待できる効果をすべてお答えください。(お答えはいくつでも)

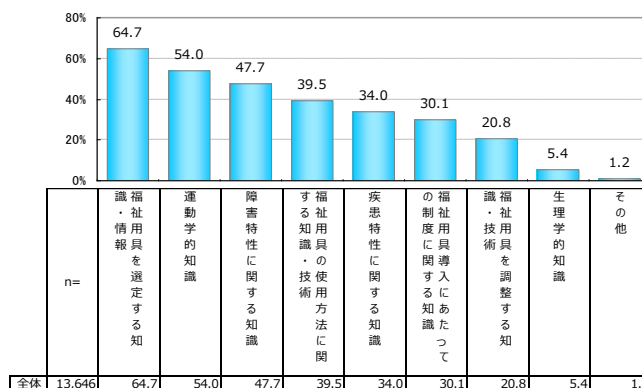


➤ 理学療法士が関わることで期待できる効果について最も高いのは、「ADL 自立度の向上」(97.0%)である。次いで「介護者の負担の軽減」(93.6%)、「生活の質の向上」(86.5%)、「心身機能の向上」(68.8%)と続く。

4. 理学療法士に必要とされる福祉用具の知識・技術

1) 理学療法士に特に必要とされる福祉用具の知識・技術

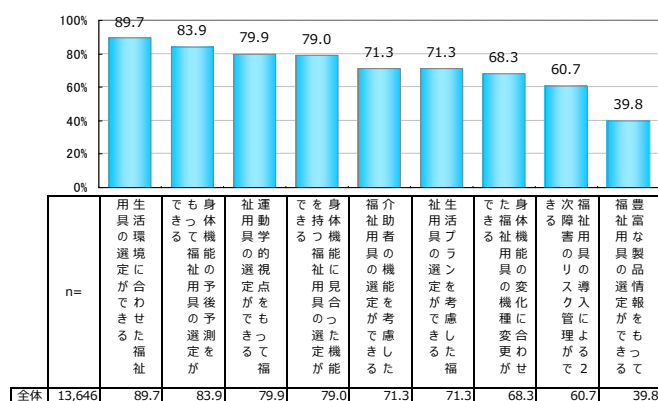
Q11.理学療法士が福祉用具に関わるにあたって、特に必要と思われる知識・技術を3つお答えください。(お答えは3つ)



- 理学療法士に特に必要とされる福祉用具の知識・技術について最も高いのは、「福祉用具を選定する知識・情報」(64.7%)である。次いで「運動学的知識」(54.0%)、「障害特性に関する知識」(47.7%)、「福祉用具の使用方法に関する知識・技術」(39.5%)と続く。

2) 理学療法士に必要とされる福祉用具の知識・技術

Q12.理学療法士が福祉用具に関わるにあたって、必要と思われる技術をすべてお答えください。(お答えはいくつでも)



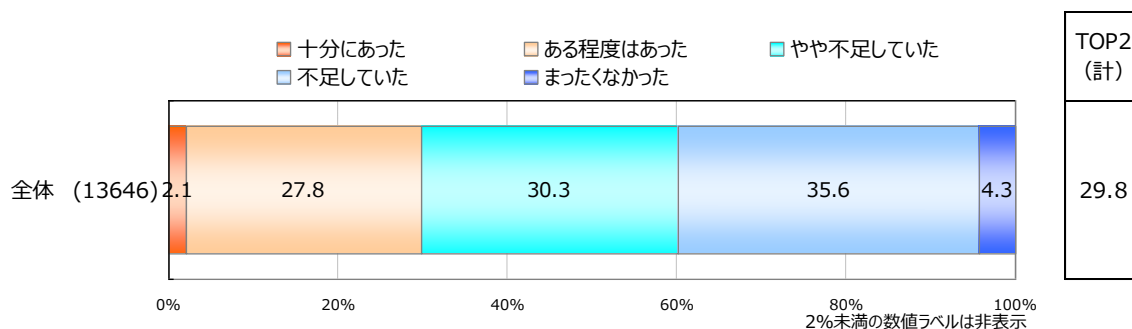
- 理学療法士の福祉用具の必要技術について最も高いのは、「生活環境に合わせた福祉用具の選定ができる」(89.7%)である。次いで「身体機能の予後予測をもって福祉用具の選定ができる」(83.9%)、「運動学的視点をもって福祉用具の選定ができる」(79.9%)、「身体機能に見合った機能を持つ福祉用具の選定ができる」(79.0%)と続く。

5. 理学療法士に必要とされる福祉用具の知識・技術を学ぶ機会

結果の数字は小数点処理の関係で一致しない箇所がある。

1) 理学療法士養成校在学中に福祉用具を学ぶ時間の有無

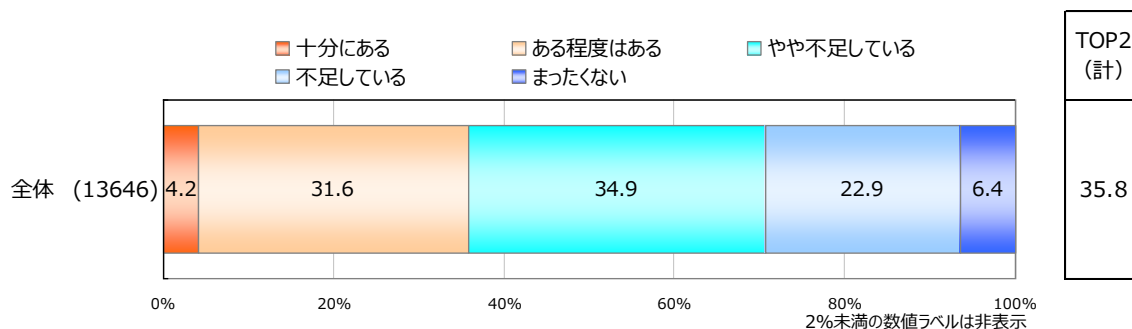
Q13.Q11、Q12 にあげた知識・技術についての習得についてお聞きします。あなたが理学療法士養成校在学中に、福祉用具を学ぶ時間はありましたか。(お答えは1つ)



- 理学療法士養成校在学中に福祉用具を学ぶ時間の有無については、「十分にあった」は 2.1%、「ある程度はあった」(27.8%)を合計すると 29.8%である。

2) 福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会の有無

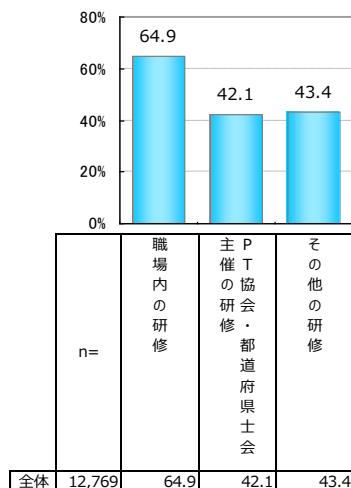
Q14.Q11、Q12 にあげた知識・技術についての習得についてお聞きします。あなたは現在、福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会がありますか。(お答えは1つ)



- 福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会の有無については、「十分にある」は 4.2%、「ある程度はある」(31.6%)を合計すると 35.8%である。

3) 福祉用具を学ぶ機会

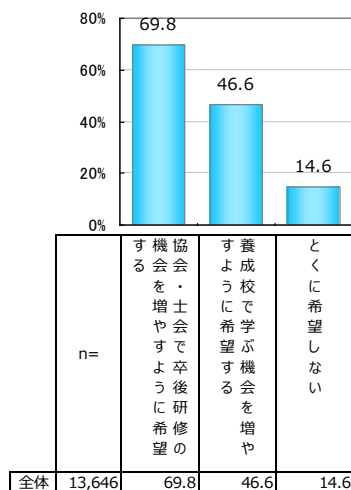
Q15.前問で、現在福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会が【ある、不足している】と答えられた方にお聞きします。それはどのような機会でしたか。(お答えはいくつでも)



- 福祉用具を学ぶ機会について最も高いのは、「職場内の研修」(64.9%)である。次いで「PT協会・都道府県士会主催の研修」(42.1%)と続く。

4) 福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会の増加希望

Q16.あなたは福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会を、もっと増やすように希望しますか。(お答えはいくつでも)



- 福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会の増加希望について最も高いのは、「協会・士会で卒後研修の機会を増やすように希望する」(69.8%)である。次いで「養成校で学ぶ機会を増やすように希望する」(46.6%)と続く。

第3章 結果のまとめ

今回の調査では、理学療法士の福祉用具への関与の度合い、関与することによる有効性、理学療法士に必要とされる福祉用具の知識と技術、福祉用具を学ぶ機会、等に関する 16 項目についてアンケートを実施した。

まず、理学療法士の福祉用具への関与の度合いについては、福祉用具は生活環境の調整を進めるうえで活用されることが多く、今回のアンケートの結果からも、福祉用具を必要としている支援対象者の平均割合は 5.38/10 であり、支援対象者の約半数が福祉用具を必要としていた。

また関与した件数をみると、「福祉用具の評価」、「選定」、「ADL 練習(使用方法の練習)」に比べると「導入や作製後のフォローアップ」について関わっていないものが多く、フォローアップが理学療法士以外の手にゆだねられていることが示唆されるとともに、フォローアップされないままに放置されていることも危惧される。

「福祉用具の評価」「選定」「ADL 練習(使用方法の練習)」「導入や作製後のフォローアップ」のいずれかで関わった福祉用具については、どれも移動関連の福祉用具(車椅子、杖、歩行器、手すり、擦り付け板等)が 90%以上を占めており、最も高かった。入院・入所施設では、基本的な ADL 自立を目標に、起居動作練習と合わせて歩行や車椅子による移動の練習に関わることが多いことに関連していることが示唆された。

福祉用具に関わっていない理由について最も高いのは、「該当する利用者がいない(63.7%)」であったが、これについては理学療法士自身が福祉用具の適応について十分に理解しておらず福祉用具の必要性を感じていないとも考えられ、「理学療法士の業務ではない(2.2%)」と合わせて、より一層の啓発と教育が必要と思われる。

理学療法士が関わっていない理由で次いで多かった「理学療法士への依頼がない(22.8%)」については、「理学療法士以外の職種が対応している(13.4%)」とともに、周囲の他職種が理学療法士を福祉用具に関わる職種として認識していない、とも考えられる。また「対応するのに必要な知識が不足している(15.2%)」に「対応するのに必要な技術が不足している(13.1%)」を加えると 28.3%となり、福祉用具に関する知識・技術の不足も深刻である。

次に、理学療法士が福祉用具に関与する有効性については、「理学療法士が関わることで期待できる効果がある」と回答した割合は 99.1%で、理学療法士が備えている専門性をもって福祉用具に関わることが、リハビリテーションを進めるうえでたいへん効果があることを自覚していることが明らかである。

期待できる効果について最もポイントが高いのは、「ADL 自立度の向上(97.0%)」で、次いで「介護者の負担の軽減(93.6%)」「生活の質の向上(86.5%)」「心身機能の向上(68.8%)」と続いており、福祉用具を用いる最大の効果である自立度の向上と介護負担の軽減についても、理学療法士には良く理解されていることがわかる。

理学療法士に必要とされる福祉用具の知識・技術と学ぶ機会についての項目では、特に必要な知識・技術について最もポイントが高い回答は、「福祉用具を選定する知識・情報(64.7%)」、次いで「運動学的知識(54.0%)」、「障害特性に関する知識(47.7%)」、「福祉用具の

使用方法に関する知識・技術(39.5%)と続く。また次の設問でも「生活環境に合わせた福祉用具の選定ができる(89.7%)」、「身体機能の予後予測をもって福祉用具の選定ができる(83.9%)」、「運動学的視点をもって福祉用具の選定ができる(79.9%)」、「身体機能に見合った機能を持つ福祉用具の選定ができる(79.0%)」との回答があり、理学療法士が持つ基本的な知識・技術を、「福祉用具の評価」「選定」「ADL 練習(使用方法の練習)」「導入や作製後のフォローアップ」に結びつける重要性が示唆される。

福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会の有無の項目では、理学療法士養成校在学中に福祉用具を学ぶ時間が不足していたとの回答は、「やや不足していた」、「不足していた」、「まったくなかった」を加えると 70.2%にのぼっており、学ぶ機会の増加を望む項でも「養成校で学ぶ機会を増やすように希望する」が 46.6%と約半数を占めており、卒前教育の充実が切に望まれる。

また、現在の福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会についても「十分にある(4.2%)」、「ある程度はある(31.6%)」合計は 35.8%にとどまり、卒後教育の充実が同様に望まれる。研修の場として「職場内の研修(64.9%)」、次いで「PT 協会・都道府県士会主催の研修(42.1%)」と回答があったが、福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会について「協会・士会で卒後研修の機会を増やすように希望する(69.8%)」のポイントが高く、協会・士会における福祉用具に関する研修の充実を求める会員からの要望の高さが伺える。

資料

1. 依頼文（メール文）

【勤務先】

【氏名】様

(本メールは福祉用具に関する調査のご案内メールです。)

謹啓 時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
平素より協会運営にご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本支援工学理学療法学会では昨年末、会員の皆様のご協力をいただき、装具に関する調査を実施いたしました。今回は福祉用具に関する調査のお願いになります。連続する調査で心苦しいばかりですが、何卒ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、前回の調査でログインできないというお問い合わせを多数いただきましたので、今回は、個別の URL にて認証する方式へ変更いたしました。

今回の調査も、前回に引き続き、機密性を保持するため、
(株)ネオマーケティング経由で調査のやりとり及びデータ分析を行います。

◆アンケート内容に関して

- ・福祉用具に関する調査
- ・対象:マイページにメールアドレス登録のある会員全員(ただし、理学療法士教員及び行政職を除く)約 89,000 人
- ・設問数:16 問(5~10 分程度)
- ・ご回答期間:2018 年 1 月 17 日(水)18:00 まで

回答方法

以下の URL よりアンケートページにお入りください。

※アンケートにご回答いただく際のネットワーク環境は
「IE8 以上」にてお願いいたします。

▽こちら

URL:*****

※回答者お一人ごとに URL が異なります。

URL はランダムに割り振っており、個人を特定する目的ではございません。

※職場におけるセキュリティレベルの関係から一部の PC では、上記 URL にアクセスできない可能性があります。その場合は、URL を転送し、別の PC (環境) からのアクセスをお願いいたします。

※アンケートの回答は任意であり、未回答の場合でも不利益は一切ございません。

ご不明点等ございましたら、下記連絡先までお気軽にご連絡ください。

今後とも宜しくお願い致します。

【アンケートの内容に関するお問い合わせ】

お問い合わせはメールにてお願い致します。

日本理学療法士協会

支援工学学会調査担当

academics@japanpt.or.jp

【結果の利用について】


ご回答いただきました内容は、本調査以外の目的には使用いたしません。

また、結果公表にあたっては統計処理を行い、個人が特定できないよういたします。

2. 調査項目

■本調査	
全員回答 改ページ	
Q1	SA あなたが現在、主に勤務している職場の種類をお答えください。 (お答えは1つ)
<input type="radio"/> 1	急性期病棟
<input type="radio"/> 2	回復期リハ病棟
<input type="radio"/> 3	地域包括ケア病棟
<input type="radio"/> 4	療養病棟
<input type="radio"/> 5	訪問
<input type="radio"/> 6	老健(入所)
<input type="radio"/> 7	通所介護(デイサービス)
<input type="radio"/> 8	通所リハ(デイケア)
<input type="radio"/> 9	その他()
<input type="radio"/> 10	臨床業務を行っていない
※調査終了	
<input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/>	
<hr/>	
全員回答 改ページ	
Q2	SA 前問でご回答いただいた職場【※Q1の回答を表示 その他の場合は回答内容を表示】の理学療法士の人数をお答えください。 (お答えは1つ)
<input type="radio"/> 1	10人未満
<input type="radio"/> 2	10人以上20人未満
<input type="radio"/> 3	20人以上30人未満
<input type="radio"/> 4	30人以上
<input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/>	
<hr/>	
全員回答 改ページ	
Q3	SA あなたの臨床経験年数をお答えください。 (お答えは1つ) ※臨床業務を行っていない期間は除いてください。
<input type="radio"/> 1	3年未満
<input type="radio"/> 2	3年以上6年未満
<input type="radio"/> 3	6年以上10年未満
<input type="radio"/> 4	10年以上
<input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/>	
<hr/>	
全員回答 改ページ	
Q4	MA あなたが日常的に関わっている主な疾患を3つまでお答えください。 (お答えは3つまで)
<input type="checkbox"/> 1	脳血管障害
<input type="checkbox"/> 2	脊髄損傷
<input type="checkbox"/> 3	骨関節疾患
<input type="checkbox"/> 4	廃用症候群
<input type="checkbox"/> 5	神経難病
<input type="checkbox"/> 6	脳性麻痺
<input type="checkbox"/> 7	内部疾患
<input type="checkbox"/> 8	小児疾患
<input type="checkbox"/> 9	虚弱高齢
<input type="checkbox"/> 10	その他()
<input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/>	
<hr/>	
全員回答 改ページ	
Q5	NUM あなたが関わる支援対象者のうち、福祉用具を必要とする方のおおよその割合をお答えください。 (お答えは半角数字で) ※0~10の整数でお答えください。対象者がいない場合は「0」と入力してください
<input type="text"/>	割程度 ※0~10の整数のみ
<input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次へ"/>	

Q6 SAMT あなたがこの1年間に、福祉用具に関する下記の項目に関わった件数をそれぞれお答えください。
(お答えはそれぞれ1つ)

					
		なし	1 ～ 2 件	3 ～ 5 件	6 件 以 上
Q6_1	評価	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
Q6_2	選定	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
Q6_3	ADL練習 (使用方法の練習)	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
Q6_4	導入や作製後のフォローアップ	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4

Q6_1～4すべてO1をONにした方以外

Q7 MAMT あなたがこの1年間に「評価」「選定」「ADL練習 (使用方法の練習)」「導入や作製後のフォローアップ」のいずれかで関わった福祉用具をすべてお答えください。
(お答えはいくつでも)

⇒表頭表示制御
Q6_1～Q6_4でO2～O4にONのある項目を表示

	Q7_1	Q7_2	Q7_3	Q7_4
	評 価	選 定	法 A の D 練 L 習 練) 習 (使 用 方	<input type="checkbox"/> 導 入 ア ヤ 作 製 後 の フ ォ ー ア ッ プ
移動関連 (車椅子、杖、歩行器、手すり、擦り付け板等)	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1
ベッド関連 (ベッド、マットレス、姿勢変換装置、移動用バー等)	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2
姿勢調整 (クッション、座位保持装置等)	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 3
移乗 (トランスファーボード、リフト等)	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4
外出関連 (段差解消機、階段昇降機、スロープ等)	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 5
入浴関連 (バスボード、シャワーチェア等)	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 6
排泄関連 (ポータブルトイレ、補高便座等)	<input type="checkbox"/> 7	<input type="checkbox"/> 7	<input type="checkbox"/> 7	<input type="checkbox"/> 7
環境調整 (住宅改修関係)	<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 8
食事 (食器、ポータブルスリングバランス等)	<input type="checkbox"/> 9	<input type="checkbox"/> 9	<input type="checkbox"/> 9	<input type="checkbox"/> 9
整容 (長柄ブラシ等)	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 10
更衣 (ボタンエイド、ソックスエイド等)	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 11	<input type="checkbox"/> 11
コミュニケーション (文字盤、意思伝達装置等)	<input type="checkbox"/> 12	<input type="checkbox"/> 12	<input type="checkbox"/> 12	<input type="checkbox"/> 12
見守り (徘徊感知器等)	<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 13	<input type="checkbox"/> 13
その他	<input type="checkbox"/> 14	<input type="checkbox"/> 14	<input type="checkbox"/> 14	<input type="checkbox"/> 14

Q7_1～4いずれかでO14をONにした方

Q7SQ FA 前問で「その他」とお答えの方にお伺いします。
関わった福祉用具を具体的にお答えください。
(お答えは具体的に)
※複数ある場合は、その中で最も多く関わった福祉用具についてお答えください。

必須

Q6_1～4すべてO1をONにした方

Q8 MA あなたが福祉用具に関わっていない理由をすべてお答えください。
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	時間がない
<input type="checkbox"/> 2	対応するのに必要な知識が不足している
<input type="checkbox"/> 3	対応するのに必要な技術が不足している
<input type="checkbox"/> 4	対応するのに必要な備品が不足している
<input type="checkbox"/> 5	理学療法士以外の職種が対応している
<input type="checkbox"/> 6	理学療法士の業務ではない
<input type="checkbox"/> 7	理学療法士への依頼がない
<input type="checkbox"/> 8	保険適応されないなどの経営的な理由がある
<input type="checkbox"/> 9	該当する利用者がいない
<input type="checkbox"/> 10	その他 ()

全員回答

改ページ

Q9 SA 理学療法士が福祉用具の(1)評価、(2)選定、(3)ADL練習(使用方法の練習)、(4)導入や作製後のフォローアップに関わることの意義についてお聞きします。理学療法士が、これらの業務に関わることで期待できる効果はありますか。(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	ある
<input type="radio"/> 2	ない

Q9=1にONの方のみ表示

改ページ

Q10 MA 理学療法士が福祉用具の(1)評価、(2)選定、(3)ADL練習(使用方法の練習)、(4)導入や作製後のフォローアップに関わることで期待できる効果をすべてお答えください。(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	心身機能の向上
<input type="checkbox"/> 2	ADL自立度の向上
<input type="checkbox"/> 3	介護者の負担の軽減
<input type="checkbox"/> 4	地域や社会活動への参加
<input type="checkbox"/> 5	生活の質の向上
<input type="checkbox"/> 6	その他()

全員回答

改ページ

Q11 MA 理学療法士が福祉用具に関わるにあたって、特に必要と思われる知識・技術を3つお答えください。(お答えは3つ)

<input type="checkbox"/> 1	運動学的知識
<input type="checkbox"/> 2	生理学的知識
<input type="checkbox"/> 3	障害特性に関する知識
<input type="checkbox"/> 4	疾患特性に関する知識
<input type="checkbox"/> 5	福祉用具導入にあたっての制度に関する知識
<input type="checkbox"/> 6	福祉用具を選定する知識・情報
<input type="checkbox"/> 7	福祉用具の使用方法に関する知識・技術
<input type="checkbox"/> 8	福祉用具を調整する知識・技術
<input type="checkbox"/> 9	その他()

全員回答

改ページ

Q12 MA 理学療法士が福祉用具に関わるにあたって、必要と思われる技術をすべてお答えください。(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/> 1	運動学的視点をもって福祉用具の選定ができる
<input type="checkbox"/> 2	身体機能の予後予測をもって福祉用具の選定ができる
<input type="checkbox"/> 3	生活環境に合わせた福祉用具の選定ができる
<input type="checkbox"/> 4	生活プランを考慮した福祉用具の選定ができる
<input type="checkbox"/> 5	豊富な製品情報をもって福祉用具の選定ができる
<input type="checkbox"/> 6	福祉用具の導入による2次障害のリスク管理ができる
<input type="checkbox"/> 7	身体機能に見合った機能を持つ福祉用具の選定ができる
<input type="checkbox"/> 8	介助者の機能を考慮した福祉用具の選定ができる
<input type="checkbox"/> 9	身体機能の変化に合わせた福祉用具の機種変更ができる

全員回答

改ページ

Q13 SA Q11、Q12にあげた知識・技術についての習得についてお聞きします。あなたが理学療法士養成校在学中に、福祉用具を学ぶ時間はありましたか。(お答えは1つ)

<input type="radio"/> 1	十分にあった
<input type="radio"/> 2	ある程度はあった
<input type="radio"/> 3	やや不足していた
<input type="radio"/> 4	不足していた
<input type="radio"/> 5	まったくなかった

Q14 SA

Q11、Q12にあげた知識・技術についての習得についてお聞きします。
あなたは現在、福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会がありますか。
(お答えは1つ)

<input type="radio"/>	○1	十分にある
<input type="radio"/>	○2	ある程度はある
<input type="radio"/>	○3	やや不足している
<input type="radio"/>	○4	不足している
<input type="radio"/>	○5	まったくない

Q14=1~4にONの方のみ

Q15 MA

前問で、現在福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会が【※Q14の回答を表示】と答えた方にお聞きします。
それはどのような機会でしたか。
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/>	□1	PT協会・都道府県士会主催の研修
<input type="checkbox"/>	□2	職場内の研修
<input type="checkbox"/>	□3	その他の研修

全員回答

Q16 MA

あなたは福祉用具に関する知識・技術を学ぶ機会を、もっと増やすように希望しますか。
(お答えはいくつでも)

<input type="checkbox"/>	□1	養成校で学ぶ機会を増やすように希望する
<input type="checkbox"/>	□2	協会・士会で卒後研修の機会を増やすように希望する
<input type="checkbox"/>	□3	とくに希望しない

排他

職能に資するエビデンス研究

福祉用具・義肢・装具支援に関する啓発と実態調査～福祉用具編～

報告書

調査対象 会員

平成30年3月

発行：日本理学療法士学会

日本支援工学理学療法学会

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷 3-8-5

公益社団法人日本理学療法士協会内

TEL 03-6804-1626 (直通)

FAX 03-6804-1627

<http://www.japanpt.or.jp/>